編 集 後 記

これまで編集委員として携わってこられてきた数々の先生方からの叱咤を受けながら，ようやく本号より私の目指す機関誌のスタイルへと変更することができた。機関誌に掲載される内容は，学会が会員に何を求めているかのショーケースであり，いたずらに記事を並べれば良いというものでもないだろう。少なくとも私が編集委員長を務める間は，テープ起こしが中心だった特集記事は思い切ってスリム化し，学会員の研究を促進する内容を選抜して掲載していきたいと考えている。

今回，その試みとして，奨励研究賞を受賞した細見氏の記事を採りあげた。私もまだ若手と言われていた頃に同じ賞を受賞したことがあったが，受賞の決定を受けて頭に浮かんだことといえば，暑い中，黒いスーツを着ながらデータ集めに全国各地を奔走した苦労でしかなかった。研究者には，論文には書けないそれぞれの想いがある。それを伝えるのが特集記事の役割ではなかろうか。いや，むしろそれこそを伝えていきたい。

編集委員長　犬塚　篤